

誉めへの返答ストラテジーの日独対照研究
— 誉めの解釈・応答にみる文化的差異 —

中村 香代子

Strategies used in compliment responses in Japanese and German:
Cultural differences in compliment interpretations and responses

NAKAMURA Kayoko

要旨

This paper attempts to analyze the compliment responses of native Japanese and native German speakers as well as German learners of Japanese which were obtained in an open discourse completion test. The responses were classified into 9 strategy types and studied in terms of frequencies of use and their detailed contents. This paper also investigates the characteristics of “multiple strategies,” which can be defined as responses including more than two different strategy types. The analyses revealed that the native German speakers and the German learners of Japanese generally gave longer responses with more diverse strategies than did the native Japanese speakers. The subject groups also showed rather clear preferences for certain strategy types; the native Japanese speakers and the German learners of Japanese often used “questioning” and “downgrading of compliment,” whereas the native German speakers used “returning of compliment” more frequently. These tendencies also applied to

the “multiple strategies.”

Furthermore, the research results and the follow-up questionnaire manifested some cultural differences in the subjects' responses and interpretations of compliments. Both the native German speakers and the German learners of Japanese often accepted a compliment to a family member and used further “upgrading of compliment,” while many native Japanese speakers tried to downgrade such a compliment. Moreover, the research results and the comments provided evidence of the German subjects' disapproval of compliments from a stranger or a non-intimate person as well as their strong preference for honest praise.

1. はじめに

語用論の分野ではこれまで感謝・謝罪・依頼・断り・苦情・非難など様々な切り口から多くの研究がされてきたが、中でも状況の必要性よりも話し手の積極的判断で発せられる誉めは、話し手の価値観を色濃く映し出す興味深い言語行動である。しかし人間関係の潤滑油として相手との連帯感を生み、また強めるために用いられ(Manes 1983)、「聞き手を心地よくさせることを前提」(小玉 1996:61)とする誉めも、聞き手が評価の対象とされたくない話題に向けられれば、攻撃的作用さえ持ちうる(山路 2006)など、対人関係(古川 2003)や異文化間の価値観の違いを理解せずに用いると、かえって関係を害する元となることもある。そこで本稿は誉めへの返答に焦点を当て、同じ誉めに対する日独母語話者の返答ストラテジーを比較分析することにより、その共通点や相違点を明らかにすると同時に、ドイツ人日本語学習者の返答の特徴も併せて分析する。さらに回答に現れたコメントやフォローアップ・アンケート結果から、日独被調査者の誉めの受け止め方における文化差を考察する。

2. 先行研究

誉めについては、誉められる対象(熊取谷 1989; 古川 2003; 金 2005)や相

手との関係や性差 (Holmes 1988; Herbert 1990; 丸山 1996) など様々な視点から多くの研究がされており、また誉めの文化的特徴についても多くの指摘がある。例えば、日本語では目上に対しては直接的な評価をすることを避け、誉めよりも感謝の形式で表現することが多い(Mizutani & Mizutani 1987)。またソトの関係にある者に対してはよく誉めるが、ウチ関係の者同士で誉め合うことは少なく、自分のウチ関係にある者をソトの人に対して謙遜することはあっても誉めることはまずない(牧野 1996)。さらに川口・蒲谷・坂本(1996)は、日本語の誉めを心から相手を誉めたい気持ちを伝える「実質ほめ」と、実際の評価よりも相手との関係を良好に保つために用いられる「形式ほめ」に分類し、日本語母語話者は両者を見分けて適切な応答をしていると指摘する。一方、ドイツ人は日本人に比べ、誉めの内容の明確さを重要視し(大滝 1996)、誉めの誠実性に非常にこだわる傾向がある (Kotthoff 1989)。

一方、誉められた側には、誉めを受け入れて不遜に見られたくないが、相手の言うことを否定する失礼も避けたいというジレンマが発生する(Pomerantz 1978)。このジレンマを解決するための誉めへの返答選択については、日・英語に関する多くの研究があり(Pomerantz 1978; 横田 1986; Holmes 1988; Herbert 1990; Chen 1993; 寺尾 1996; 丸山 1996)、全般的に英語話者の方が日本語話者よりも誉めを多く受け入れること、またドイツ人も誉めを非常によく受け入れること(Golato 2002)が報告されている。しかし日英独どの言語においても、相手に逆らわずに自己賞賛を避ける工夫として、聞き返し、対象物の謙遜、他の人や物への視点移動、誉め返しなどのストラテジーが頻繁に用いられる点では共通しており(熊取谷 1989; Golato 2002)、これらの分類も上記の各研究において様々に試みられている。ただこれまでの返答ストラテジーの分類は、単独で現れたもののみの分析が中心であったが、実際の誉めへの返答には、「いや、まだまだですよ。(誉めの軽減) あなたはテニスするのですか? (話題変え)」のように 2 種類以上のストラテジーが同時に使用される場合も多く、これらは全体で一つの返答としてジレンマ解消機能を果たすと見るべきであろう。よって本稿では、個々のストラテジー使用のみならず、このように 2 種類

以上のストラテジーを用いた返答を「複合ストラテジー」とし、その詳しい使用状況を探ることとする。

3. 被調査者と調査・分析方法

調査は大学生・大学院生(JSLのみ一部社会人)を対象に、日本語母語話者 62名(男女ほぼ同数)、ドイツ語母語話者 62名(男女ほぼ同数)、日本滞在歴の無い(又は一ヶ月以内の)ドイツ人日本語学習者(JFL) 34名(男 11・女 23)、1年以上の日本滞在歴のあるドイツ人学習者(JSL) 44名(男 25・女 19)の4グループに行った。JFL・JSLの平均滞在期間は各々1.5週間と2年、平均日本語学習期間は3年と7年であり、また日本語レベルを調べるため行ったクローズテスト(筆者 2005)の平均点は30点中各々6.6点、18.6点と、グループ間でかなり差があった。ドイツ語母語話者は、日本語知識の影響を避けるため、JFL、JSLと全く別に収集した。

調査には誉めを受ける6場面を設定し、各場面に置かれた場合何と返答すると思うかを問う自由記述式談話完成テスト(以後DCTとする:付録1参照)を実施した。日独母語話者には各々日本語とドイツ語版の、日本語学習者には、設定説明はドイツ語・相手の台詞のみ日本語のテストを用意し、設定のうち1つは、家族に対する誉めとして花嫁姿の姉が誉められる場面とした。回答に際して時間制限は無く、とっさに浮かんだ回答を好きなだけ書くように、また何も言わないと思う場合は、その理由を書くよう依頼し、辞書や教科書の使用は禁止した。DCTに関しては、実際の発話特徴を反映していないという指摘がある反面、場面設定を統制しやすく、母語話者と学習者の使用ストラテジー比較が可能(Rintell & Mitchell, 1989)、非言語情報による影響を受けないため、テスト条件を一定に保てる(Fukushima, 2000)など、実際の発話データやロールプレイでは得がたい利点もあり、点在する被調査者と短い調査滞在期間に適した方法として採用した。上述の設定における各被調査者グループの使用ストラテジー内容に焦点を当て、以下にその比較分析を試みる。

4. 結果

4-1 返答ストラテジーの分析

返答の中ではっきりとした感謝や否定以外の表現を使ったり、さらに言葉を続けたりしている場合の発言を、先行研究（横田 1986; Holmes 1988; Herbert 1990; Chen 1993; 寺尾 1996）の分類項目を参考に表 1 の 9 つのストラテジーに分類した。

表 1 9 つの分類ストラテジーの例（DCT 回答から抜粋）

A 誉めの追加	「私、運動神経がいいのよ」「今日は姉、ほんとに綺麗ですね」
B 対象に関する説明	「子供の頃習ってたからね」「今日はたまたま運が良かっただけです」
C 情報提供	「その床屋は安くて上手いですよ」
D 誉めの軽減	「モデルなんてもうおばあさんなのに……」「私の字はまだ子供っぽいです」
E 誉めのお返し	「君も泳ぐの上手だね」「あなたの方がよっぽどモデルさんみたいよ」
F 冗談	「うん、実はモデルだよ」「よくプロみたいと言われます」
G 聞き返し	「本当？いいかな？」「ほんとにそう思う？」
H 励ましや申し出	「お前もすぐ上手く泳げるようになるぞ」「教えてあげようか？」
I 話題変え	「(そんなことないよー。) 今何してたの？」「(ありがとう。) テニスやってる？」

4 つの被調査者グループが、単体や「複合ストラテジー」の要素として使用したストラテジーの全体的な選択傾向を知るため、各ストラテジー使用数を場面別に集計したものが表 2 であり、() 内の % は各被調査者グループの各場面でのストラテジー使用総数中の割合を示したものである。また右端の列には、各グループの全ストラテジー使用合計数が有効回答総数に占める割合を示した。分析の結果、以下のような点が明らかになった。

表 2 9つのストラテジーの場面別使用割合

		場面1 甥-水泳	場面2 友-髪型	場面3 上司-字	場面4 体型	場面5 テニス	場面6 姉の姿	回答全体		使用総数 / 回答数
ドイツ語 母語話者	A 追加	2 (3%)	1 (2%)	1 (4%)	0	0	35 (76%)	A	39 (16%)	240 / 354 (68%)
	B 説明	6 (10%)	24 (53%)	10 (43%)	4 (14%)	17 (50%)	5 (11%)	B	66 (28%)	
	C 情報	0	4 (9%)	0	0	0	0	C	4 (2%)	
	D 軽減	4 (6%)	3 (7%)	2 (9%)	1 (3%)	4 (12%)	0	D	14 (6%)	
	E 誉返し	21 (33%)	2 (4%)	0	8 (28%)	5 (15%)	0	E	36 (15%)	
	F 冗談	3 (5%)	0	0	6 (21%)	3 (9%)	3 (7%)	F	15 (6%)	
	G 聞返し	8 (13%)	11 (25%)	10 (43%)	8 (28%)	0	1 (2%)	G	38 (16%)	
	H 励/申出	16 (25%)	0	0	0	2 (6%)	0	H	18 (7%)	
	I 話題変	3 (5%)	0	0	2 (7%)	3 (9%)	2 (4%)	I	10 (4%)	
	小計	63 (100%)	45 (100%)	23 (100%)	29 (100%)	34 (100%)	46 (100%)		240 (100%)	
日本語母 語話者	A 追加	5 (9%)	0	0	0	0	2 (11%)	A	7 (4%)	185 / 363 (51%)
	B 説明	7 (13%)	13 (29%)	4 (20%)	1 (8%)	6 (18%)	5 (28%)	B	36 (19%)	
	C 情報	0	1 (2%)	0	0	0	0	C	1 (0.5%)	
	D 軽減	3 (5%)	0	2 (10%)	1 (8%)	13 (38%)	5 (28%)	D	24 (13%)	
	E 誉返し	0	1 (2%)	1 (5%)	7 (54%)	0	0	E	9 (5%)	
	F 冗談	0	0	0	0	1 (3%)	0	F	1 (0.5%)	
	G 聞返し	13 (24%)	29 (64%)	13 (65%)	1 (8%)	8 (24%)	4 (22%)	G	68 (37%)	
	H 励/申出	21 (38%)	0	0	0	0	0	H	21 (11%)	
	I 話題変	6 (11%)	1 (2%)	0	3 (23%)	6 (18%)	2 (11%)	I	18 (10%)	
	小計	55 (100%)	45 (100%)	20 (100%)	13 (100%)	34 (100%)	18 (100%)		185 (100%)	
JFL	A 追加	1 (3%)	0	0	0	1 (7%)	7 (58%)	A	9 (8%)	116 / 177 (66%)
	B 説明	2 (6%)	3 (13%)	2 (15%)	0	1 (7%)	0	B	8 (7%)	
	C 情報	0	0	0	0	0	0	C	0	
	D 軽減	2 (6%)	4 (17%)	8 (62%)	6 (30%)	8 (57%)	3 (25%)	D	31 (27%)	
	E 誉返し	3 (9%)	3 (13%)	0	2 (10%)	1 (7%)	0	E	9 (8%)	
	F 冗談	0	0	0	1 (5%)	0	0	F	1 (1%)	
	G 聞返し	14 (43%)	14 (58%)	3 (23%)	7 (35%)	2 (14%)	2 (17%)	G	42 (36%)	
	H 励/申出	9 (27%)	0	0	0	0	0	H	9 (8%)	
	I 話題変	2 (6%)	0	0	4 (20%)	1 (7%)	0	I	7 (6%)	
	小計	33 (100%)	24 (100%)	13 (100%)	20 (100%)	14 (100%)	12 (100%)	計	116 (100%)	
JSL	A 追加	0	0	0	0	2 (6%)	13 (54%)	A	15 (8%)	186 / 257 (72%)
	B 説明	4 (9%)	6 (17%)	2 (10%)	1 (3%)	8 (24%)	2 (8%)	B	23 (12%)	
	C 情報	0	2 (5%)	0	0	0	0	C	2 (1%)	
	D 軽減	7 (16%)	2 (5%)	17 (85%)	8 (27%)	19 (58%)	0	D	53 (28%)	
	E 誉返し	6 (14%)	1 (3%)	0	5 (17%)	1 (3%)	2 (8%)	E	15 (8%)	
	F 冗談	4 (9%)	1 (3%)	0	8 (27%)	1 (3%)	1 (4%)	F	15 (8%)	
	G 聞返し	9 (21%)	24 (67%)	1 (5%)	6 (20%)	1 (3%)	5 (21%)	G	46 (25%)	
	H 励/申出	10 (23%)	0	0	0	0	0	H	10 (5%)	
	I 話題変	3 (7%)	0	0	2 (7%)	1 (3%)	1 (4%)	I	7 (4%)	
	小計	43 (100%)	36 (100%)	20 (100%)	30 (100%)	33 (100%)	24 (100%)	計	186 (100%)	

表 2 右端に見られるように、日本語母語話者は全有効回答数中のストラテジー使用割合が 51%と 4 グループ中最も低く、回答も「ありがとう」「そんなことないですよ」など、かなり画一的な感謝・否定表現のみか、それに(G)＜聞き返し＞を加えた短いものが多かった。これに対しドイツ人被調査者は、日本語力が低めで全般に回答が単純だった JFL を除き、多様なストラテジーを豊富に

駆使して、会話をさらに発展させようとする努力が見られた。川口・蒲谷・坂本(1996)は、「実質ほめ」を行えるのは個人的に親しいか、相手の能力を評価できる立場にある者という制約があるため、これに当てはまる誉めは軽く受け入れ、それ以外は一応「形式ほめ」と解釈して、「いいえ、とんでもない」などの決まり文句で返答しておけばよいとしているが、今回も多くの日本語母語話者がこのルール通り無難な受け答えをしたためと思われる。これに対しドイツ語母語話者は、自身が「形式ほめ」を用いることを好まぬ上、2種の誉めの区別を判断し難いため、とりあえず相手の誉めを誠実なものとして受け取り、これをきっかけに会話を続けようと努力したと考えられる。例えば、個々のストラテジー使用について見てみると、日独母語話者とも<誉められた対象の説明>を加えることが多かったが、ドイツ語母語話者は特にその割合が高く、内容的にも *Das freut mich, dass du es bemerkt hast. Findest du die neue Frisur wirklich gut? Ich war mir nicht sicher. Man weiß nie bei Änderungen! Es kommt einem zunächst so fremd, ungewohnt vor!* ((新しい髪形を誉められて) 気づいてくれて嬉しいわ。新しい髪型本当にいいと思う? 自信なかったの。髪型を変える時って自分ではいいかどうか絶対分からないのよね。最初はすごく慣れなくて変な感じがするでしょ。) のように、かなり長めのコメントが多く見られた。

説明内容の日独比較では、ドイツ語母語話者の場合は、*Ich hab mir extra Mühe gegeben.* ((字を綺麗に書こうと) すごく頑張りました) や *Alles eine Frage der Übung.* (まあ練習が肝心ですね) など、自らの努力を強調する発言が多かったのに対し、日本語母語話者は、「今日はたまたま上手くいったんです」のように運のおかげとしたり、「一応子供の頃習ってたからね」など特別な才能ではないことを控え目に示したりする発言が目立った。またドイツ語母語話者は、使用ストラテジーの中でも<誉め返し>の割合が全体で15%と比較的高く、日本語母語話者と統計的有意差(Pearson χ^2 検定により2グループ間で選択した(しなかった)人数分布の独立性を検定した結果、自由度1、 $p < 0.01$)が見られたのに対し、日本語母語話者は相手の意図を<聞き返す>方策をかなり高い

割合(37%)で使用し(ドイツ語母語話者との統計的有意差 $p<0.01$)、JFL(同じく $p<0.01$)とJSL($p<0.05$)も同様の傾向を示した。〈聞き返し〉は、誉めに対する意外性や自らの自信の無さを示すことで謙虚さを表現し、誉めの効果を緩和する方法として、日本語母語話者に好んで用いられたものと思われる。JFLとJSLも〈聞き返し〉を多く用いたが、表2で場面ごとの使用割合を詳しく見てみると、必ずしも日本語母語話者のそれとは一致せぬばかりか、時として母語話者の使用を上回っている。また全体的にJFLの方がJSLよりも〈聞き返し〉を多用していることや、フォローアップ・アンケートに、学習者の日本語での返答への自信の無さ、不遜に聞こえてはいけないという強い意識が示されたことから、この使用割合は日本語学習の効果というより、むしろなるべく曖昧で謙虚な返答を狙ったための語用論的な過剰一般化の表れという方が近いと思われる。

一方、ドイツ語では自らをへりくだらせるよりも、相手の誉めに感謝し、同調した上で、相手を持ち上げる方策がより好まれると考えられる。さらに、ドイツ語母語話者とJSLは上司を除くほぼ全ての場面で〈冗談〉の使用が見られたが、日本語母語話者にはほぼ全く使用が見られなかった(共に統計的有意差 $p<0.01$)。JFLは日本語力不足のためか使用が少なかったものの、JSLの冗談の使用傾向は母語からの語用論的転移と見られなくもなく、冗談使用に対する文化的感覚の違いを示すものとして興味深い。また日本語母語話者は、他グループに比べ〈話題変え〉のストラテジーをわずかながら多く用いた(全体で10%、ドイツ語母語話者・JSLとの統計的有意差は共に $p<0.05$)。ここにも誉めを早目に切り上げようとする意識が窺える。

ドイツ人日本語学習者は両グループ共に、誉めを否定しながら更に対象物を謙遜する〈誉めの軽減〉ストラテジー(例:(字を誉められて)「いいえ、まだ練習しなければ下手です」)の使用割合が全体でJFL27%、JSL28%と、日本語母語話者の13%と比べても高く(共に統計的有意差 $p<0.01$)、場面別に見ても、場面6を除く全場面で日本語母語話者を上回っている。これは横田(1986)のアメリカ人日本語学習者の否定ストラテジーと共通するものであり、誉めへの否

定返答を日本人の社会規範として紹介する日本語テキストの影響(Saito & Beecken 1997)もあると思われる。JFLとJSL回答のストラテジー使用には、あまり目立った違いは見られなかったが、わずかにJSLの方が使用種類や表現の多彩さで上回った。これは両グループの日本語レベルの差によるものと思われる、特に日本語力を要する<説明>や<冗談>において顕著であった。また滞在年数が短いJFLに比べ、JSLの回答は誉めの強い否定傾向が全体的に和らぎ、滞在歴3年以上の被調査者の回答には、「～さんこそお世辞お上手ですね」「何かおごりましょうか？」など、日本語母語話者の回答にも多く見られた日本語らしい表現を使いこなす例が見受けられた。このことから、「形式ほめ」に慣れ、上手に受け流せるようになるには、実際の会話体験や映像を通して日本語話者の応対に多く触れ、時間をかけて吸収する必要があるといえそうである。

姉の花嫁姿が誉められる場面では、日本語母語話者は、「一生に一度だから」「今日は一世一代の良き日ですから」など、結婚式という状況の特殊性を強調する説明が目立ったのに対し、ドイツ人被調査者は、JFLにわずかに<誉めの軽減>使用が見られた他は、「ええ、本当に。天使みたいですね」「私も鼻が高いです」「いつも綺麗な姉ですが、今日は一段と美しいです」など、手放しで姉を賞賛する<誉めの追加>を含む回答が圧倒的に多く、3グループ共に日本語母語話者との間に統計的有意差($p < 0.01$)が見られた。またドイツ語母語話者には、*Sie sollten es ihr persönlich sagen.* (姉に直接言って下さい)と促す回答も目につき、フォローアップ・アンケートにも「姉が綺麗なのは私の手柄ではない」「僕の気持ちでは姉は別人」など、姉への誉めを否定することへの抵抗感を示すコメントが多くあり、家族をウチ関係の存在ととらえて謙遜する日本人との家族観の相違が現れた結果といえる。

4-2 複合ストラテジー使用の分析

次に上で見た9つのストラテジーのうち、2つ以上が1回答中に出現した複合ストラテジーの使用状況を分析してみた。表3に示したように、2種類の複合ストラテジーには<(G)聞き返し>を含む組み合わせが全体的に非常に多く

(43/60 回：72%)、特にドイツ語母語話者(10/19 回：53%)に比べ、日本語母語話者(20/27 回：74%)、JFL(6/6 回：100%)、JSL(7/8 回：88%)はその割合が高かった。〈聞き返し〉で予想外の誉めに対する驚きや自信の無さをまず表すことで、形式ほめの場合でも、お世辞を真に受けた不遜な印象を防げるため、日本語母語話者が多用したものと思われる。また学習者グループも、先述の通り謙虚で曖昧な回答を試みた結果、母語話者以上の使用に至ったと考えられる。また全グループに共通して最もよく使用された複合ストラテジーは、〈(G)聞き返し〉+〈(B)説明〉であった。上述の〈聞き返し〉の効果に加え、一応相手に応えて対象について話しつつも、上手く視点をずらすことで、誉めに対する肯定・否定を曖昧にできるためだと思われる。

ドイツ語母語話者の使用した複合ストラテジーには〈軽減〉は殆ど見られず(1/19 回：5%)、〈誉め返し〉が多く見られ(8/19 回：42%)、〈説明〉や〈励まし〉〈冗談〉〈話題変え〉などと併用して、さりげなく相手も誉めていることがわかる。アンケート回答にも、「不遜に思われたくはないが、自分の得意なことはとても誇りに思っていて、誉められれば嬉しい」「どう答えるかは自分の能力次第」といったコメントがいくつかあり、こうした気持ちが、内心自信を持っている事物を表面的に謙遜するよりも、相手を誉め返すストラテジー使用につながったといえるだろう。これに対し、日本語母語話者には〈軽減〉を含む複合ストラテジーが多く(7/27 回：26%)、〈誉めの追加〉の効果を相殺したり、控え目な〈説明〉と組み合わせるさらに謙遜を強めたりしており、先述の〈聞き返し〉と同じように、返答全体を謙虚にまとめようとする意識がくみとれる。学習者については数が少なく、特徴を指摘するには不十分であるが、日本語話者を時に上回る〈聞き返し〉多用の一方で、ドイツ語母語話者に多く見られた〈誉め返し〉や〈冗談〉使用も見られ、母語からの影響も示唆される。

表3 各被調査者グループの複合ストラテジー使用状況 (2種類)

(独語原文は付録2参照)

グループ	出現数	回答例
ドイツ語 母語話者 (筆者訳)	A+E 1	長年の練習の成果だよ！でもお前も上手いじゃないか！
	B+E 1	いつもは美容院でうまくいったためしが無いんだけどね。ありがとう。君も素敵だね。
	B+I 1	ありがとう。長いことトレーニングしましたから。一度一緒にプレーしませんか。
	C+H 1	近所のある角を曲がった美容院よ。すごく上手いの。一度行ってみなさいよ。
	D+E 1	まあ少なくとも見苦しくない髪型にしてもらえたよ。格好いいTシャツだね。
	E+F 1	お前の方がずっと上手いよ。お前に比べたら僕なんかおもちゃのアヒルちゃんだよ。
	E+H 1	そうだよ。君も上手だよ。何事も練習！だからいつも真面目に練習するんだぞ！
	E+I 1	絶対お前の方が泳ぎが上手いよ。競争するかい？
	G+A 1	そう思う？ありがとう。まあ何事も練習だね。
	G+B 5	そうですか？あまりテニスは得意じゃないんです。どちらかというとな卓球が好きで…。
	G+C 1	そう思う？美容院ほとんどタダみたいな値段だったんだよ。
	G+E 2	ええ？本当？でも君も上手いね。
	G+I 1	そう思う？今度泳ぎの競争しようか？
I+H 1	よろしかったら今度会って一緒にプレーしませんか。いくつかコツをお教えしますよ。	
日本語 母語話者	A+D 2	いつもはそうでもないけど、今日はほんとに綺麗ですね。
	B+D 2	たまたまですよ、タイミング良く見て下さったんです。いつもはダメダメです。
	B+I 1	すごい勇気いったの。まだ自分でも見慣れんけどさっぱりした。〇〇は髪切らんの？
	D+I 1	そんなことないですよ。全然まだまだですよ。あなたはテニスするのですか。
	H+I 1	教えてやろうか？まあスイカ割りすっか。
	G+A 1	あ、そーう？これでもお姉さん運動神経よかったのよ。
	G+B 9	ほんとに？ありがとう。昨日切ったんだよ/美容師さんに感謝だわ/パーマかけてみた。
	G+C 1	そう？〇〇で切って貰ったんだけど安くて良い所だったよ。
	G+D 2	ええ？そんなことないですよ。いつも丸文字だって友達に言われます。
	G+E 1	そう？でも〇〇ちゃんが大きくなったら私よりずっと上手く泳げるようになるよ。
G+H 5	そう？ありがとう。君も練習すれば上手くなるよ。	
G+I 1	そう？ありがとう。テニスやってる？	
JFL	G+B 3 G+E 1 G+H 2 (計 6/177 (3%))	
JSL	E+I 1 G+B 3 G+F 2 G+H 1 G+I 1 (計 8/257 (3%))	

ドイツ語母語話者には、説明や励ましなど同じストラテジーを続けて使う回答が多かったが、3種類を使用した複合ストラテジーは、全体で表4の3つだ

けであった。内容的には、聞き返しや説明で自らを謙遜しつつ、相手を誉め励ますことで持ち上げ効果を増幅しており、かなり長く丁寧な返答といえる。自然会話においては、相手の反応を見ながら、さらに多種類の複合ストラテジーが使用される可能性もあり、今後の研究課題である。

表4 各被調査者グループの複合ストラテジー使用状況 (3種類)
(独語原文は付録2参照)

グループ	出現数	回答例
ドイツ語 母語話者 (筆者訳)	E+B+H 1	君も上手いよ！君の年の頃は僕はそんなに上手く泳げなかったよ。このままいけばひょっとすると有名な水泳選手になれるかもしれないよ！
	G+F+H 1	そう？きっと遺伝子のせいね！すぐに君ももっとずっと上手くなるわよ！一緒に頑張って練習しましょ！
JFL	G+B+H 1	本当ですか？以前はとても下手だった。一年後に君が私よりよくなってくるはずですよ。

4-3 誉めの受けとめ方

ドイツ人被調査者の DCT 回答で特徴的だったのは、誉めの誠実性に対する疑いや批判がしばしば表明されたことである。先述の通り、ドイツ人は率直さを欠いた表面的な誉めには抵抗を覚えるため、円滑な人間関係のためだけに心にもない誉め言葉は使わないことが多い(Kotthoff 1989)。実際に、JSL データには「(この髪型は) いつもと同じじゃん！ごますり！」や「(甥に) 何言ってるの！馬鹿にすんな！」「いや、お世辞はいらない。」「(私のテニスの試合を) 見てなかったのに誉めるのはよくないじゃないですか」など、社交辞令的な誉めに対する軽い批判が示され、ドイツ語母語話者にも、字やテニスへの誉めに対し *Vielen Dank für die Blumen!* (元々は批判に対し「ご忠告ありがとう」の意) と、冗談めかしつつも誉めを皮肉ととる回答が見られた。また十分に共有情報が無い初対面の相手からの誉めは、他の意図があると解される場合もある。フォローアップ・アンケートにも、「知らない人からの誉めは予期していない」「相手が本気で言っているのかわからない」「表面的なお世辞で、居心地が

悪い」「ただの社交辞令なら無視する」など、親しくない相手からの誉めや社交辞令的な誉めに対する強い抵抗感や不快感を表すコメントが数多くあり、中には上司に字を誉められて、「セクハラともとれて、気分を害する」という厳しい意見もあった。一方、日本語母語話者には、こうした誉めに対し不快感を示す反応は特に無く、「お上手ですね」「ご冗談を」「そんなにおだてても、何もでないわよ」など上手にかわす回答が多かった。つまり「実質ほめ」「形式ほめ」を上手に使い分ける日本語母語話者は、違和感を覚えず軽く受け流す術を身に付けているが、「形式ほめ」を好まず、両者の使い分けに不慣れなドイツ人被調査者は、お世辞と解釈しうる誉めに抵抗や戸惑いを感じたものと思われる。このように、適切な誉めの場面や頻度にも文化差がある(Wolfson 1981)ため、親しみを表すつもりの誉めが逆効果になってしまう場合もあり、この受け取り方の相違も今後の興味深い研究課題である。

5. おわりに

本稿では、自由記述式談話完成テストのデータを基に、日独語母語話者とドイツ人日本語学習者の誉めへの返答における(複合)ストラテジー使用の実態を比較分析した結果、以下のような特徴が見られた。

- (1) 日本語母語話者の短く画一的な返答に対し、ドイツ人被調査者には多様なストラテジー使用が見られる
- (2) 全体的に、日本語母語話者と学習者は<聞き返し><誉めの軽減>、ドイツ語母語話者は<誉め返し>の使用が多い
- (3) ドイツ人被調査者は、家族に対する誉めは多く受け入れ、<誉めの追加>を多く行う
- (4) 複合ストラテジーは<聞き返し>を含むことが多く、組み合わせられるストラテジーで最も多いのは<説明>である。またドイツ語母語話者の複合ストラテジーには<誉め返し>が多く見られ、日本語母語話者の場合は<誉めの軽減>が多い
- (5) ドイツ人被調査者は、表面的と感じられる誉めに対し、強い抵抗感

や不快感を覚える

違う視点に立つと、適切な誉めの基準が異なることを踏まえた上で、相手の理解を心がけるよう、教育の現場でも伝えてゆく必要性が示唆されたといえる。

また学習者のアンケートには、「ドイツ語では言えるのに、日本語では誉められて全てに有難うと言えないところが厄介」「誉められて、嬉しくても否定しなければならないところが難しい」など、文化差に対する過剰な意識が見られた他、「家族への誉め言葉は受け入れてよいのか、よくわからない」「お世辞にどう反応したらいいのか」など、ストラテジー選択に対する自信の無さや疑問も示され、今後の日本語教育の課題の一つといえよう。相手との関係や誉めの対象など、変数の統制が不十分なために本調査では明らかにできなかった「対人関係や誉めの対象と返答ストラテジーの関係」については、今後の課題としたい。

参考文献

- (1) 大滝敏夫 (1996) 「ほめことばの日独比較」『日本語学』5月号
- (2) 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」『日本語学』5月号
- (3) 金 庚芬 (2005) 「会話に見られる『ほめ』の対象に関する日韓対照研究」『日本語教育』124号
- (4) 熊取谷哲夫 (1989) 「日本語における誉めの表現形式と談話構造」言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究(2)留学生日本語教育編 [1]. 広島大学教育学部
- (5) 小玉安恵 (1996) 「対談インタビューにおけるほめの機能(1) - 会話者の役割とほめの談話における位置という観点から -」『日本語学』5月号
- (6) 寺尾留美 (1996) 「誉め言葉への返答スタイル」『日本語学』5月号
- (7) 筆者 (2005) Appreciation strategies and compliment responses in German and Japanese: The interlanguage pragmatics of German learners of Japanese. 東京大学大学院 修士論文
- (8) 古川由理子(2003) 「書き言葉データにおける〈対者ほめ〉の特徴 - 対人関係から見た『ほめ』の分析 -」『日本語教育』117号
- (9) 牧野成一 (1996) 『ウチとソトの言語文化学 - 文法を文化で切る -』アルク
- (10) 丸山明代 (1996) 「男と女とほめ - 大学キャンパスにおけるほめ行動の社会言語学的分析 -」『日本語学』5月号
- (11) 山路奈保子 (2006) 「日本語の『ほめ』についての - 考察 - 『ほめ』を攻撃的に作用させる要因の分析 -」『日本語教育』130号
- (12) 横田淳子 (1986) 「ほめられたときの返答における母国語からの社会言語学的転移」『日本語教育』58号
- (13) Chen, R. (1993) Responding to compliments: A contrastive study of politeness strategies between American English and Chinese speakers. *Journal of Pragmatics*, 20.
- (14) Fukushima, S. (2000) *Requests and culture*. Bern: Peter Lang.
- (15) Golato, A. (2002) German compliment responses. *Journal of Pragmatics*, 34.
- (16) Herbert, R. (1990) Sex-based differences in compliment behavior. *Language in society*, Vol.19.
- (17) Holmes, J. (1988) Paying compliments: A sex-preferential politeness strategy. *Journal of Pragmatics*, 12.
- (18) Kotthoff, H. (1989) So nah und doch so fern: Deutsch-amerikanische pragmatische Unterschiede im universitären Milieu. *Informationen Deutsch als*

Fremdsprache, 16.

- (19) Manes, J. (1983) Compliments: A mirror of cultural values. In N. Wolfson & E. Judd (Eds.) *Sociolinguistics and second language acquisition*. Rowley, Mass.: Newbury House.
- (20) Mizutani, O. & Mizutani, N. (1987) *How to be polite in Japanese*. Japan Times.
- (21) Pomerantz, A. (1978) Compliment responses: Notes on the co-operation of multiple constraints. In J. Schenkein (Ed.) *Studies in the organization of conversational interaction*. New York: Academic Press.
- (22) Rintell, E., & Mitchell, C. (1989) Studying requests and apologies: An inquiry into method. In S. Blum-Kulka, J. House, & G. Kasper (Eds.) *Cross-cultural pragmatics: Requests and apologies*. Norwood, NJ: Ablex.
- (23) Saito, H. & Beecken, M. (1997) An approach to instruction of pragmatic aspects: Implications of pragmatic transfer by American learners of Japanese. *The Modern Language Journal*, vol.81 (3).
- (24) Wolfson, N. (1981) Compliments in cross-cultural perspective. *TESOL Quarterly*, 15.

付録1 DCT (日本語版)

1	<p>あなたは甥っ子を連れて海に行きました。しばらく泳いで戻ると甥がこう言います。</p> <p>甥：泳ぐのすごくうまいんだね。かっこいいよ！</p> <p>あなた：</p>	4	<p>あなたが高校生の妹と街で買い物をしていると、妹の友達にばったり会い挨拶します。</p> <p>妹の友達：はじめまして。わあ、〇〇 (妹の名前) のお兄 (姉) さん、すごくスタイル良くてモデルさんみたい！</p> <p>あなた：</p>
2	<p>髪を切った翌日、大学で会ったクラスメートがあなたの髪型を見てこう言います。</p> <p>クラスメート：わあ、髪切ったの？</p> <p>すごく似合ってる。格好いいね。</p> <p>あなた：</p>	5	<p>あなたが大学のテニスコートで友達と試合をしていると、それを見ていたあなたの友達とその友人が近づいてきました。あなたはこの友達の友人とは初めて会ったのですが、あなたのプレーを誉めてくれました。</p> <p>友達の友人：いや、すごくお上手ですね。サーブもプロみたいでしたよ。</p> <p>あなた：</p>
3	<p>あなたは仕事先で封書の宛名書きを頼まれ、仕上げて上司に手渡します。</p> <p>上司：(受け取りながら) へえ、君、</p> <p>すごく字がきれいだねえ。</p> <p>あなた：</p>	6	<p>あなたのお姉さんの結婚披露宴の会場で、招待客で初めて会った中年の婦人が話しかけてきました。</p> <p>中年の婦人：お姉さま、お綺麗ですねえ。こんなに綺麗な花嫁さんは初めて見たわ。</p> <p>あなた：</p>

付録 2

表 3 ドイツ語母語話者グループのオリジナルドイツ語回答

A+E 1	Tja mein Kleiner, jahrelange Übung! Aber du machst dich auch ganz gut!!
B+E 1	Normalerweise habe ich nicht soviel Glück beim Friseur. Vielen Dank. Du bist sehr schön.
B+ I 1	Vielen Dank, dafür habe ich lange trainiert. Es wäre mir eine Freude einmal mit Ihnen zu spielen.
C+H 1	Bei einem Friseur bei uns um die Ecke! Der ist sehr gut. Geh doch auch mal hin.
D+E 1	Na, wenigstens ein Friseur bekommt es mal hin meine Haare ordentlich aussehen zu lassen. Tolles T-Shirt.
E+F 1	Quatsch, du bist viel besser, im Vergleich zu dir schwimme ich wie eine Bleiente!
E+H 1	Ja, nicht wahr? Du aber auch. Übung macht den Meister! Also immer schön fleißig üben!
E+ I 1	Du schwimmst sicher besser als ich. Lust auf ein Wettschwimmen?
G+A 1	Meinst du? Danke, alles Übung.
G+B 5	Finden Sie? Dabei ist Tennis eigentlich nicht so mein Fall. Ich ziehe da eher Tischtennis vor.
G+C 1	Findest du? Dabei hat die Frisur fast nichts gekostet.
G+E 2	Was!? Ehrlich!? Du aber auch!
G+ I 1	Findest du? Was hältst du von einem Wettschwimmen das nächste Mal?
I+H 1	Wir können uns gerne mal treffen und gemeinsam spielen, wenn Sie Lust haben. Dann kann ich Ihnen ein paar Tricks zeigen.

表 4 ドイツ語母語話者グループのオリジナルドイツ語回答

E+B+H 1	Du auch! In deinem Alter konnte ich noch nicht so gut schwimmen! Wenn du so weiter machst, wirst du vielleicht mal ein berühmter Schwimmer!
G+F+H 1	Findest du? Das liegt wohl in den Genen! Ich wette, bald bist du noch viel besser! Wir werden fleißig zusammen üben!